

令和7年度

第3回 学校運営協議会～はりはらの会～



運動会、修学旅行

令和8年2月6日（金） 午後2時00分から

浜松市立曳馬小学校

令和7年度 第3回 曳馬小学校運営協議会 ～はりはらの会～

- 1 日 時 令和8年2月6日（金） 午後2時00分～午後3時30分
- 2 会 場 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 内 容
 - 1 会長挨拶
 - 2 校長挨拶
 - 3 議長の選出
 - 4 前回会議録の確認
 - 5 熟議
 - ①「学校関係者評価」について（正委）
 - ②「来年度の学校運営の基本方針」について（校長）
 - ③「学校運営協議会自己評価」（会長）
 - ④「学校支援活動について」（正委）
 - 6 その他
夢育やらまいか事業報告（教頭）

- ※ 次回開催 令和8年度 第1回学校運営協議会 ～はりはらの会～
5月8日（金）午前10時20分～午前11時30分（予定）
※1年生を迎える会 午前9時20分～午前10時10分

学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会 長	飯尾 忠弘
副会長	荒巻 太枝子
委 員	川井 啓介
委 員	中村 佐知枝
委 員	戸田 京子
委 員	鈴木 香代
委 員	山田 佳乃

オブザーバー

曳馬協働センター主任	伊藤 成明
------------	-------

学 校

校 長	藤井 隆志
教 頭	古橋 孝文
主幹教諭（CS担当）	鈴木 正委
CSディレクター	内堀 邦子

今年度の計画

第1回 学校運営協議会 5月2日（金）午後2時00分～3時30分
熟議

- （1）令和7年度 学校運営の基本方針」について（校長）
- （2）「いじめ防止等のための基本方針」について（校長）
- （3）「夢育やらまいか事業」について（教頭）

~~第2回 学校運営協議会 8月7日（木）午後2時00分～3時30分 → 中止~~
熟議

- （1）「学校経営評価」について（校長）
- （2）「教育課程」について（主幹）

第2回 学校運営協議会 10月31日（金）午後2時00分～3時30分
熟議

- （1）「学校経営評価」について（校長）
- （2）「教育課程」について（主幹）
- （3）「令和7年度全国学力学習状況調査」について（主幹）
- （4）「学校評価」について（校長）
- （5）「学校支援活動」について（主幹）

第3回 学校運営協議会 2月6日（金）午後2時00分～3時30分
熟議

- （1）「学校関係者評価」について（主幹）
- （2）「来年度の学校運営の基本方針」について（校長）
- （3）「学校運営協議会自己評価」について（会長）
- （4）「学校支援活動」について（主幹）

令和7年度 曳馬小学校評価（案）

I 令和7年度の取組

【学習推進】			【安心安全】		
①資質・能力を確実に身に付ける授業改善 ・資質・能力を育成する単元づくり ・見方・考え方を働かせる深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び	②自立し生活を豊かにしていく生活科 ・「知りたい、やってみたい」を実現する活動や体験 ・他教科や上下の発達段階の学びとの滑らかな接続 ②探究的に取り組むよろこびタイム ・問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究学習の確実な実施 ・各教科で身に付けた資質・能力との関連付け	③子供主体の特別活動 ・自発的、自治的で創意工夫あふれる活動や行事の充実 ・学級、学年を超えてつながるよりよい人間関係づくり	①みんなが心地よい学校生活 ・思いやり・規範意識の涵養と自尊感情の高揚 ・多様性、包摂性を大切にする学級風土の醸成 ・ICTリテラシーの向上 ・あいさつの習慣化	②自他を大事にする健康・安全指導 ・基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）の定着 ・命・心・体を守る知恵と術の習得 ・運動する楽しさを味わえる活動・環境の工夫	③温かで細やかな個別支援 ・児童の困り感をチームで解決する発達支援、登校支援 ・いじめ防止基本方針に基づく適切な対策・対応

【連携・協働】

①地域・家庭との情報共有 ・保護者と共に考える教育相談 ・情報収集と情報活用 ・ICT、地域回覧等によるタイムリーな情報発信	②コミュニティ・スクールの充実 ・目指す子供像、児童の実態の共有 ・地域・家庭の人的・物的教育資源の積極的な活用 ・学校支援コーディネーター、曳馬協働センターとの連携・協働
---	---

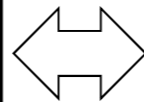
II 自己評価 ※「評価」は「そう思う」「ややそう思う」の割合 ※「比較」は昨年度との比較

項目	評価	児童の評価	比較	保護者の評価	評価不能	比較	教職員の評価	比較	自己評価の分析・考察
①探究・創造	進んで「知りたい」「やってみたい」をかなえることができる	88.6 %	1.5	83.3 %	4.3	2.1	88.8 %	10.7	【アンケートの結果より】 ・児童、教職員の評価は、ほぼ全ての項目で数値が上がった。安定した学校運営の結果と捉えらえる。一方、保護者の評価は、反対にほぼ全ての項目で下がった。これは、今年度より「評価不能」の選択肢を増やした影響が大きく出たと考える。 ・全体で見ると、生活の項目の数値が他と比べて高く、なかでも「規範意識」の数値が高い。昨年度、課題であった「あいさつ・言葉づかい」については改善が見られた。 ・全体で見ると、学習の項目の数値が他と比べて低い。ただし、昨年度よりも数値自体は上がっているものが多く、「のびやかな学び」をテーマに資質・能力の育成に取り組んできた成果とも言える。 【全国学力調査の結果より】 ・国語科・算数科・理科の3教科それぞれ全国平均を上回った。各教科「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも数値が高かった。 ・質問紙では、6割以上の項目で全国平均を上回る肯定的な回答が得られた。特に、「学習習慣」「自己有用感」「ICTを活用した学習状況」で肯定的な意見の割合が高かった。 【いじめ対応】 ・「いじめアンケート」を年3回実施し、いじめに対して積極的な認知をしている。生徒指導主任を中心に、早期発見、早期対応を心掛け、子供たちや保護者との共有ができています。
②自尊・個性伸長	自分のよさがわかり、自分を高めることができる	90.8 %	5.8	83.3 %	3.3	-7.6	92.6 %	2.0	
③協働・共生	友達や周りの人と力を合わせて活動することができる	90.3 %	2.7	86.8 %	4.3	-2.8	100.0 %	6.2	
④目標選択	目標を立て、進むべきプロセスを自ら選ぶことができる	87.0 %	-0.1	77.1 %	2.9	-1.0	80.7 %	18.2	
⑤学習	「勉強してよかった」「勉強はおもしろい」と思っている	86.0 %	6.7	62.4 %	4.8	-4.1	85.2 %	7.1	
⑥学習	自分の考えや思いをもち、それを表そう、伝えようとしている	85.4 %	0.6	81.2 %	0.8	-1.4	85.2 %	7.1	
⑦学習	学んだことを生活で生かしたり、さらに深く自分で調べたりしている	85.7 %	7.2	66.5 %	2.5	-3.1	81.5 %	15.9	
⑧学習	ルールやマナーを守り、タブレット型端末を学習に生かしている	97.3 %	4.3	79.3 %	5.8	-5.2	81.5 %	6.5	
⑨生活	学校では楽しく安心して生活している	94.2 %	6.6	92.1 %	2.3	-1.5	100.0 %	0.0	
⑩生活	学校の決まりや大人や友達との約束を守り、マナーよく生活している	96.5 %	4.1	88.2 %	2.1	-3.9	92.6 %	20.7	
⑪生活	気持ちのよいあいさつや返事、言葉づかいができています	92.3 %	4.5	77.1 %	1.9	-0.7	77.8 %	21.5	
⑫生活	早寝・早起き・食事など自分の健康に気をつけて生活している	88.0 %	4.5	78.1 %	0.4	-1.0	96.3 %	11.9	
⑬生活	自分から進んで運動や体力づくりに取り組んでいる	87.4 %	5.6	62.4 %	0.6	-4.1	88.9 %	10.8	
⑭教職員（姿勢）	先生方は子供たちのよさや頑張りを大切にしている	95.9 %	2.3	91.5 %	3.3	-3.9	100.0 %	0.0	
⑮教職員（姿勢）	先生方に安心して相談できる	85.7 %	3.3	89.0 %	3.7	-1.9			
⑯連携	学校と家庭は必要な情報が共有できている			80.0 %	3.3	-3.2	100.0 %	0.0	
		4.0		-2.7		9.2			

ピンク色→数値の高いもの（5つ） 水色→数値の低いもの（3つ）

III 今後の改善方針

- ◇教職員全体で「学校教育目標」を共有するとともに、「曳馬っ子 4つのめあて」を教育活動全般をとおして意識していく。
- ◇授業と実生活との接点を増やしたり、「よろこびタイム」「生活科」を活かして、探究・創造的な学びをさらに進めたりする。
- ◇タブレット型端末を含めた子供たちの学習状況を保護者にも周知できるように工夫をする。
- ◇「自律」をテーマに、今後も子供たちが学習面、生活面ともに自分で考えて行動できるように支援をしていく。
- ◇「いじめアンケート」や「面談」を定期的に行い、今後もいじめの早期発見、早期対応に努める。その際は、児童、保護者、教職員、地域との連絡を密にして、組織としての対応をさらに意識していく。



IV 学校運営協議会による学校関係者評価

--

(様式1)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立曳馬小学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・ 地域や保護者との連携をさらに深め、学校行事や学習活動に地域の力を生かす体制を整える。



<次年度の目標(案)>

- ・ 地域や保護者の力を学校運営に安定的に生かす仕組みを完成させ、次期へ引き継げる体制を構築する。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

◎—3 ○—4 △—0 ×—0 <3. 4点>

- 学校経営構想の現状、目標、手立て、それぞれを校長が詳細に説明し委員が共通認識を持ち十分な熟議が出来た。
- 子供たちが自主的に運営している運動会を見学した各委員が感動した。「曳馬っ子4つの目当て」の「よろこびをつくりだす」を達成したことであり、委員全員が熟議してきた成果である。
- 学校経営書により、学校教育目標等の説明があったため、理解を深めることができた。
- 概ねできたと感じている。より分りやすい方針になったと思う。
- 今年度は、昨年度の学校経営構想のNo1 [現状] No2 [目標] No3 [手立て] が示されたので、より具体的になり、教師も子供にも解かり易くなった。
- 昨年の評価をふまえた改善方針も示され、新しい時代に生きる子供の育成を目指しているのがよく分かった。
- 学校教育目標を「曳馬っ子の4つのあて」として記され、更に「土台とする学校風土」を記されていたので学校が目指したい方向性がよく理解できた。
- 「学校運営基本方針」について、協議会として子供や教職員への伝え方、伝わり方を丁寧に行っていくよう校長に要望した。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

◎—1 ○—4 △—2 ×—0 <2. 8点>

- 学校の教育目標と学校支援活動をリンクした熟議がされなかったのが残念だった。
- 地域・保護者ボランティアの体制について、より多くの方に関わっていただくことができる方法について意見を出し合うことができたと感じている。
- 学校支援活動の大切さを地域に広報していく熟議がされた。
- 「目指す子どもの姿」を意識しながら意見を交わすことで、学校での取り組みと地域の役割の位置が理解でき、協力体制がさらに取りやすくなると感じた。学校が求める支援をしていける話合いになったと思う。
- 8月の協議が中止となったため熟議のためには不足を感じた。
- 地域の力を生かすためには、地域の子供を含めた課題の熟議も必要かと思う。SDGs等今日的な課題を子供たちと探究学習する場があると良いと思う。
- 学校運営協議会として学校支援活動として何をしたらよいかの協議はなされていないと思う。学校が求めている支援内容を実践できていないと感じる。
- 算数ボランティアを実施することができたことはよかった。持続可能な方法・人材をさぐっていきたい。学校の様子を参観する機会が少なくて残念であった。
- 学校と地域がより連携を取り合える為に足りないと感じる事案としてコーディネーターの常在など必要と思われる意見が聞かれた。
- 地域との連携やICT活用支援員・コーディネーターとの協働を強め、学校環境の改善と安全確保を進めることで、基本方針に沿った教育活動の質を底上げし、子供たちと安心して学べる体制を充実させることが大切である。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

◎—0 ○—4 △—3 ×—0 <2.5点>

- 居住する地域の自治会役員会や、ボランティアグループにてCSの活動の紹介や、学校支援について繰り返し説明していく。社会の変化に対応していく必要がある。学校は校長を筆頭に全てのことに改革に取り組んでいることを紹介していきたい。
- PTA全体へは周知する機会がないため難しいが、PTA役員へ協議会の活動を報告すればよかったと反省している。周知していないものの、花壇の水やりボランティアを募集したところ複数のPTAにご参加いただいた。
- 放課後児童会の職員との共有、情報発信はできたが、自分にできる方法をもっと考えて発信していきたい。
- 就学前の教育施設、団体の意見交換の場や自園の参観会等で保護者に向けて学校やCSについて情報発信をした。
- 学校と地域・家庭の「パイプ役になれるような実践をしていきたいと思うが、何をどのようにしてよいか分からなかった。
- 民児協の定例会(毎月)では毎月必ず発表する時間は設けられず、発信は充分とは言えなかったが、民生委員との懇談会を受け入れて下さり、学校・児童の様子、問題点を共有できた。
- たくさんの住民の方々に学校運営に興味をもってもらい、協力的になってもらえると協議した意識もある。

＜評価項目4＞ 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 学校教育目標と学校支援活動をリンクさせた広報を学区内の地域にして、より多くの方の賛同をいただく。
- 学校と地域の連携を深めるため、学校支援コーディネーターの選任・配置を進めていきたい。また、学校支援ボランティアに参加しやすくするよう、活動事例の広報方法等を考えていく必要があると感じた。
- 子供たちの現状に沿った支援をしていけるように、学校の取組や子供たちの生活にもっと目を向ける。
- 学校の取組や子供の実態について、未就学児の保護者へ情報が届いていないと感じる。そのため、子供だけでなく保護者においても就学において段差がある。その点を解消すべく情報発信に努めていきたい。
- 今年度と同じでよいと思う。(実現されていないので)
- 学校教育目標を実現できるよう児童、保護者の実情に合った地域のサポートを強化していく。
- PTA活動の方法も変化していく中、地域住民の支援は益々必要となってくると思われるので、協議体は、その取組方法をさらに検討する。

令和 8 年度 学校支援ボランティア実施計画(案)

曳馬小学校の子供たちの学びを豊かにし、教員の指導体制を補完するため、学校のニーズに基づいた地域連携・学校支援を以下のとおり推進する。

1. 基本方針

本校の教育課題および児童の実態に合わせ、効果的なボランティア活用を行う。地域住民の参画を得ることで、教育活動の充実と開かれた学校づくりを両立させる。

2. 活動区分および支援内容

区分	主な活動・支援内容	協力団体・対象
学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科: 町たんけん等の引率補助 ・総合: 学区内校外学習の引率補助 ・図工: 道具操作支援(3 年金づち、4 年のこぎり) ・家庭科: 調理実習の見守り 裁縫支援(手縫い・ミシン) ・書写: 毛筆指導支援(3 年、書き初め) 	登録ボランティア
算数支援	・算数科の学習補助、習熟度別学習のサポート	はりはら隊
読書支援	・朝の読み聞かせ活動、図書環境の整備	おはなしのとびら
特別活動	・クラブ活動(年 3 回)の専門的な実技指導・講師	登録ボランティア
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の整備(水やり・植栽補助) ・校内の美化活動(草取り・落ち葉拾い等) 	登録ボランティア
地域人材活用	・生活科、総合的な学習の時間における講話や体験活動等	CS委員 協働センター紹介

3. 依頼・運用方法

- 登録ボランティアの運用

学年担任または主幹教諭が登録者へ直接依頼し、日程調整を行う。

※学校支援コーディネーターが選任された際は、窓口を一本化し、校務負担の軽減とよりスムーズな調整体制の構築を図る。

- 専門ボランティアとの連携

「はりはら隊」「おはなしのとびら」とは、前年度の実績を踏まえ、継続的な連携を維持する。

- 地域人材の開拓

地域に根ざした学習や専門的な講話が必要な場合は、CS委員や協働センターと連携し、適切な人材の紹介を受ける。

令和7年度 第2回 曳馬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月31日（金） 午後2時00分から4時30分
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾 忠弘、中村 佐知枝、戸田 京子、鈴木 香代、山田 佳乃
- 4 欠席委員 荒巻 太枝子、川井 啓介
- 5 オブザーバー 伊藤 成明(曳馬協働センター)
- 6 学 校 藤井 隆志（校長）、古橋 孝文（教頭）、
鈴木 正委（主幹教諭・CS担当職員）、内堀 邦子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 内堀邦子（CSディレクター）
- 10 議長の指名
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、飯尾会長を議長に推挙する発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 「令和7年度学校経営評価」について（藤井隆志校長）
- (2) 「教育課程」について（鈴木主幹教諭）
- (3) 「令和7年度全国学力学習状況調査」について（鈴木主幹教諭）
- (4) 「学校評価」について（藤井隆志校長）
- (5) 「学校支援活動」について（鈴木主幹教諭）

12 会議記録

司会から、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。オブザーバーとして、曳馬協働センターの伊藤成明さんに参加していただいた。

(1) 「令和7年度学校経営評価」について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき「学校経営評価」について説明があり、以下の発言があった。

- ・ 学校経営構想について教職員による共通理解がされているか。（飯尾会長）
- ・ 学校運営協議会の意義や活動や学校経営構想を教職員に分かりやすく示す必要を感じている。解釈を深め、同じ方向を向いて実践できるよう進めていく。
（藤井校長）
- ・ 教職員に学校運営協議会の良さ、価値を伝えてもらいたい。（飯尾会長）
- ・ 「心身の安全が保障され安心して生活できる学校」の評価が低いのは、どういうことか教えてほしい。（山田委員）
- ・ いじめ防止対策は行っているが根絶されてはいない。また、対人関係などから不要なけがにつながる等の不安がゼロにはならないからではないか。（藤井校長）

- ・ 早寝、早起きについて教員はどのように評価しているのか。(山田委員)
- ・ 遅刻者が多数見受けられる。基本的な生活習慣は、家庭環境が大きく影響する。遅刻の理由を聞く中で、家庭環境や生育歴を理解し指導していく。(藤井校長)
- ・ 旗振りの時、子供の様子を観察している。登校が遅くなりがちの子供がいて心配をしている。(飯尾会長)
- ・ 挨拶ができていない学校だと思っていたが、最近できていないように感じる。その理由が気になる。地域や家庭への働きかけと共に、挨拶を自らすることを指導する必要がある。学校での取組はどのように行っているのか。(戸田委員)
- ・ 他校と比較すると曳馬小は挨拶ができていないと感じている。校内では挨拶ができていないが、校門や校外では挨拶をしていないように感じる。他者への警戒が強く求められている時代背景が影響しているのではないかと。現在は特に取組は行っていないが今後に向けて思案中である。(藤井校長)
- ・ 昨年度からコーディネーターが不在。これにより教員がコミュニティスクールのことを認知していないのではないかと。主体的な授業のためには地域の人材発掘は必要不可欠。コーディネーターから協働センターに働きかけ、地域人材を活用することで授業の充実を図ることができるのではないかと。コーディネーターは2～3人必要ではないかと。(戸田委員)
- ・ 近年、曳馬小学校の教員の大幅な入れ替えがあり、研修主任が交代したり若手教員が増えたりしている。授業は土台固めを進めている。教員の環境を整えることにより教育の充実度が上がる。特別活動では、教員が一丸となり、ダイナミックに活動を行っている。今後コーディネーターは2～3人必要だと考えている。(藤井校長)
- ・ 1期のコーディネーターは研修会に参加し、その後主体的に活動してくれていた。(飯尾会長)
- ・ 現時点ではコーディネーターの候補はいない。学校内での活動は、敷居が高くて入りにくいと言われている。各々の行事に協力できる人材については、行事ごとの担当教員や教頭先生と連絡を取っていききたい。(伊藤オブザーバー)

協議の結果、学校経営評価について、全員異議なく承認した。

(2)「教育課程」について

議長の指示により、鈴木主幹教諭から別紙資料に基づき教育課程について説明があり、以下の発言があった。

- ・ 児童会の子供たちを見ていると宿題を自力でできる程の学習理解がされていないと感じることがある。サマータイムやウインタータイムの影響があるのではないかと。(鈴木佳代委員)
- ・ サマータイムやウインタータイムは昼休みを短縮しているが、授業時間は変更していないので、学習時間が減ることはない。短縮は、暑さ対策により校庭で遊べないことや冬の感染症対策のために行っている。(鈴木主幹教諭)

- ・ 休み時間が減ったことで、子供たちがリフレッシュできていないということはないか。(鈴木佳代委員)
- ・ アンケート結果では、もっと遊びたいという声もあるが、早く帰ることができて良いという声の方が多い。体調管理を優先していきたい。(鈴木主幹教諭)
- ・ 今年の酷暑の影響で、遊びの制限があったが、子供のストレス軽減をどのように行ったか。(荒巻委員)
- ・ 熱中症対策のために、校庭で遊ぶ時間や内容の制限を行ったが、雨の日のために用意したカードゲーム等を活用した。(鈴木主幹教諭)
- ・ 先生の研修の際、おすすめ授業やおすすめ単元を見に行くための体制作りが必要ではないか。(戸田委員)
- ・ 学年内で協力しながら参観するための体制をできる限り整えている。(鈴木主幹教諭)
- ・ 水泳の入水承認の体制が、保護者の不注意で子供の水泳の機会を減らしてしまうので、入水できない時に連絡するよう変更を検討してもらいたい。(山田委員)
- ・ 安全面を最優先しているので、話し合った結果、現行体制に決まった。保護者へ十分に周知し、理解を求めていきたい。(鈴木主幹教諭)

協議の結果、教育課程について全員意義なくこれを承認した。

(3) 「令和7年度全国学力学習状況調査」について

議長の指示により、鈴木正委主幹教諭から、別紙資料に基づき「令和7年度全国学力学習状況調査」について説明があり、以下の発言があった。

- ・ 静岡県平均よりかなり学力が上回っていることが分かった。(飯尾会長)

令和7年度全国学力学習状況調査について、全員異議なくこれを承認した。

(4) 「学校評価」について

議長の指示により、藤井校長から別紙資料に基づき「学校評価」について説明があり、以下の発言があった。

- ・ 今年度から「分からない」の回答項目を追加した。これにより学校からの発信がうまくできているかを検討したい。(藤井校長)
- ・ 保護者は全学年対象に調査を行う。児童は3～6年のみ調査を行う。(鈴木主幹教諭)
- ・ 子供には、学校・習い事・家庭でのそれぞれの姿があるが、アンケートで回答する際に学校での育ちだけで評価するのか、習い事での育ちで成長した子供の能力として評価するのか回答の際に分からない。(山田委員)
- ・ 学校で育まれていることを評価して欲しい。「分からない」という回答を用意し

- たのは学校のアナウンスが適切なのを見極めたいため。(藤井校長)
- ・ 山田委員と同じことを悩んでいる保護者がいると思うので、アンケート用紙に補足してほしい。(中村委員)
 - ・ 今後補足する。(藤井校長)
 - ・ 学校で育まれたことが生活で見えてくる。保護者が線引きするのは難しいと思う。(戸田委員)
 - ・ 保護者が迷わないよう、検討して作成していただきたい。(飯尾会長)

学校評価について全員異議なくこれを承認した。

(5)「学校支援活動」について

議長の指示により、鈴木主幹教諭から別紙資料に基づき「学校支援活動」について説明があった。

- ・ 算数ボランティアについて別紙資料に基づき戸田委員から説明があった。算数は得意不得意の差が大きくなりやすいため、不得意な子の底上げを図るボランティアが必要と考えている。(戸田委員)
- ・ 学校側のニーズに合ったボランティアを持続可能で子供たちにとって理想的な形で整備していきたい。窓口や体制に課題があるため模索しているので、意見がほしい。(鈴木主幹教諭)
- ・ 必要な協力依頼は、別紙にまとめている。コーディネーターがいたら、協働センターへ橋渡しの役割をお願いしたい。(飯尾会長)
- ・ ボランティア募集は学校だよりで具体的に募集をかけるのか。(飯尾会長)
- ・ 構想段階だが、登録用紙を作成し保護者や地域の方に登録してもらおうと考えている。協働センターにて地域回覧などで人材募集をしてほしい。現在人材リストはあるか。(鈴木主幹教諭)
- ・ 学校でのボランティアに来てくれそうなリストはない。協働センターでのボランティア活動ならできる人はいる。(伊藤オブザーバー)
- ・ ボランティアの募集を具体的な内容で発信していく方がよいと思う。登録制度は良いと思う。(飯尾会長)
- ・ クラブ活動などの具体例を出して募集する方が連絡しやすいと思う。(戸田委員)
- ・ 多くのことを実行しようとするのではなく、小さな気付きを積み重ねていくことが大切。焦らず1つずつ進めていくことが大切。(鈴木陽子指導主事)

学校支援活動について全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

飯尾会長より研修会参加報告があった。

次回会議は、令和8年2月6日(金)午後2時00分から多目的ホールで開催する旨の報告があった。